

匠 探訪

97

聖徳太子塔

吉田を歩く

1889年4月に明治の町村合併で吉田村が誕生し役場とともに2年半後に吉田小学校も開校、村の中心となりました。

小学校の校門そばの大木のもとに並ぶ数基の石造物から地域の歴史を知ることができ

ます。

右側から庚申塔（文字塔）、聖徳太子塔、庚申塔（刻像塔）が2基、そして馬頭観音塔の順に並びます。

最も古いものは、1680年に立てられた庚申塔で、この年が庚申にあたるため村をあげて塔を立てました。

正面の文字を見ると、「下総国千田庄吉田村」とあり、吉田地域が1200年代以降千葉氏の支配した千田庄に含まれていたことを伝えています。市内に残る庚申塔は、この年に造立されたものが最古です。

右から3番目も庚申塔で、1740年の庚申年に「吉田村」全体で立て、右端の1860年の塔には「住方講中」とあります。1700年ごろから村が7人の支配者に分割され、次第に集落意識が深まったことをこの塔が示しています。

右から2番目に立つのが聖徳太子塔です。正面に「聖徳

太子」、台石に「吉田村太子講中」と文字が刻まれています。太子講中とは大工、左官、畳屋、鍛冶屋などの職人やきこり、木挽きなどの仕事をする仲間のこと、決められた日に集まり、賃金や仕事の取り決めなどをしたとされます。塔が立てられたのが1788年で、当時の村びとの中にこうした職業の人たちがいたことを伝えています。

今までに市内で確認された「聖徳太子塔」は、金原区（飯高地区）にある1825年に飯高村など周辺10か村の職人たちが立てた塔と吉田村のこの2基だけです。

左端の「馬頭観世音」と刻まれた文字塔は、1926（大正15）年に「吉田組運送」が立てました。同年12月には軽便鉄道多古線の八日市場・多古間が開通する予定で、運送業者が安全を祈念したのかも知れません。

近くに熊野神社もあり、30年ほど前からこの場所に石塔を立てたことで、村びとも村の中心と考える意識が芽生えていたのでしょう。

（元 市職員・依知川雅一）

☎ 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

吉田小学校の校門そばに並ぶ石塔

